

CERA M RETAN

F★★★★

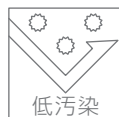
ホルムアルデヒド放散等級

低汚染形セラミック変性ターペン可溶ウレタン樹脂塗料

セラMレタン

JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料3級

適用素材 コンクリート、モルタル、鉄、亜鉛めっき、木部等



セラミック変性ウレタン樹脂により
耐久性と低汚染性に優れ、建物や建造物を
保護します。



セラMレタン

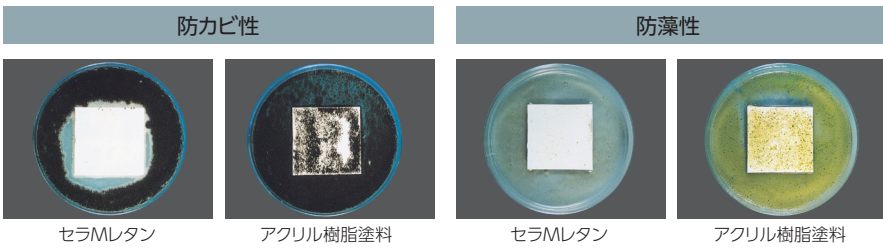
Cera M Retan



特長

- 1 油性塗料、フタル酸樹脂塗料、アクリル樹脂塗料など、様々な旧塗膜にリフティング現象を発生させずに塗り替えられます。
- 2 2液硬化反応により耐候性、耐薬品性、耐久性など優れた塗膜性能を発揮します。
- 3 弱溶剤で希釈するため作業性に優れ、より安全な作業環境で塗装ができます。また、鉛・クロムを配合しておりません。
- 4 セラミック変性ですので、もちろん低汚染形です。
- 5 防カビ、防藻性を有しています。
- 6 JIS K 5658 : 2010 3級認証品です。

防カビ性・防藻性 (カビ・藻の繁殖抑制効果)

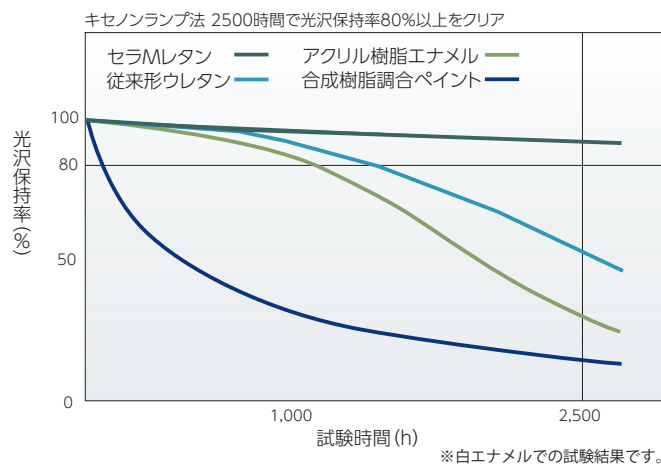


荷姿

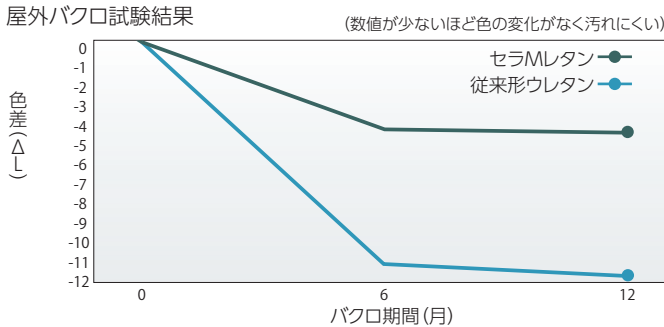
荷姿	16kgセット (ベース : 14.5kg) (硬化剤※ : 1.5kg)	4kgセット (ベース : 3.6kg) (硬化剤※ : 0.4kg)
----	---	---

※弾性硬化剤は1.5kgのみ。

耐候性

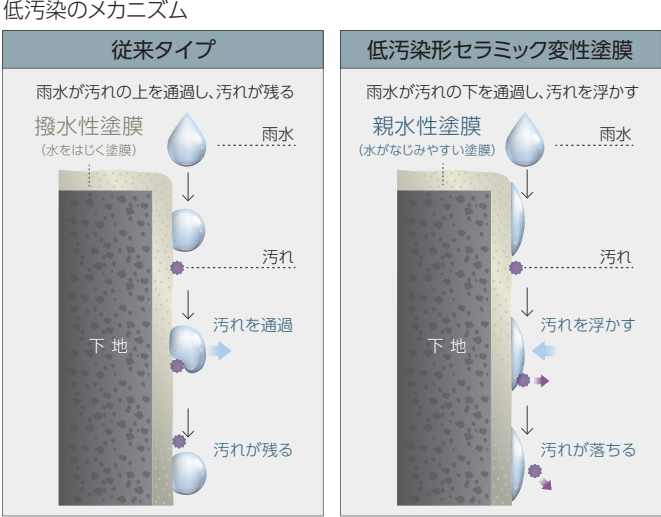


耐汚染性



塗料	色差 (ΔL)	
	6カ月後	12カ月後
セラMレタン	-4.8	-4.2
従来ウレタン	-10.7	-11.2

低汚染性



JIS規格試験 試験結果

JIS K 5658:2010 3級 試験結果

試験項目	結果	規定	
容器の中での状態	合格	主剤・硬化剤ともかき混ぜたとき、硬い塊がなくて一様になるものとする。	
乾燥時間	23℃	合格	8時間以下
	5℃	合格	16時間以下
ポットライフ	合格	5時間で使用できるものとする。	
塗膜の外観	合格	塗膜の外観が正常であるものとする。	
隠ぺい率% (白及び淡色)	96	90以上	
鏡面光沢度 (60度)	85	70以上	
耐衝撃性 (落球式)	合格	おもりの衝撃で塗膜に割れ及びはがれが生じてはならない。	
付着性 (クロスカット法)	合格	分類1又は0である。	
重ね塗り適合性	合格	重ね塗りに支障があってはならない。	
耐酸性	合格	酸に接したとき異常がないものとする。	
耐アルカリ性	合格	アルカリに接したとき異常がないものとする。	
耐湿潤冷熱繰返し性	合格	湿潤冷熱繰返しに耐えるものとする。	
促進耐候性	合格	キセノンランプ照射600時間で、塗膜に割れ・はがれ・ふくれがなく、光沢保持率は70%以上で、色の変化の程度が見本品に比べて小さくなく、白亜化の等級が1又は0とする。	
屋外暴露耐候性	合格	光沢保持率が30%以上で、試料の色差が見本品の色差と比較して小さくなく、白亜化の等級が、3、2、1または0である。	



KP-111



KP-110



KP-112



KP-223



KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



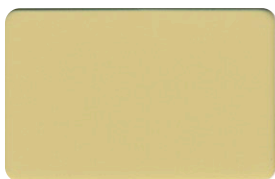
KP-336



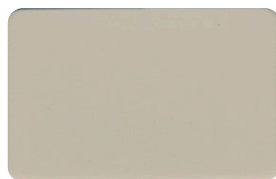
KP-141



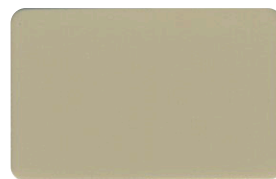
KP-247



KP-330



KP-147



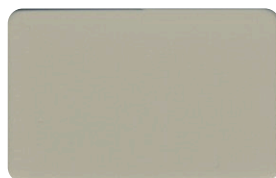
KP-350



KP-75



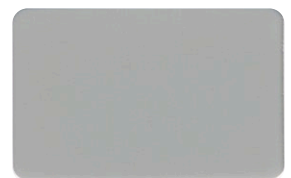
KP-347



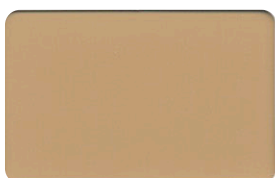
KP-150



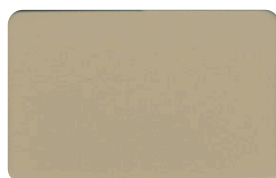
KP-352



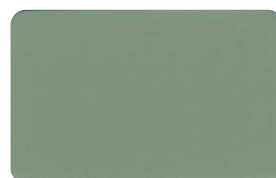
KP-70



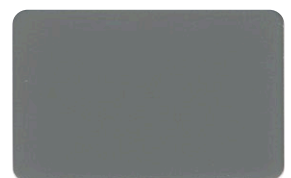
KP-356



KP-357



KP-368 ◎



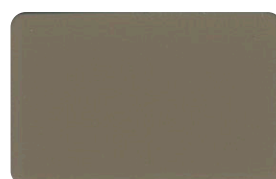
KP-50



KP-367



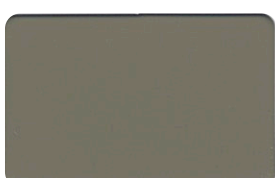
KP-167



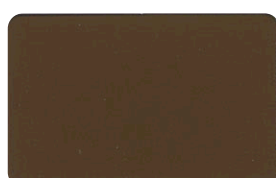
KP-376



KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
 実際の仕上りと多少異なります。
 ※提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
 などでの調色も可能です。
 ◎印は、材料費が割高になります。

セラムレタン

標準塗装仕様

■ コンクリート・モルタル・スレート面

旧塗膜のテクスチャーを変えた塗り替え

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処置を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。				
下地調整材 (下塗) (中塗)	アレスホルダー-GII 上水	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	多孔質 ローラー	1~5
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30

旧塗膜のテクスチャーを活かした塗り替え

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処置を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。				
下地調整材 (下塗) (中塗)	アレスホルダー-GII 上水	0.3~0.5	8時間以上 7日以内	中毛 ローラー	5~10
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30

■ 窯業系サイディングボード (トップコートの塗り替え)

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	サイディングボードのクラック・ボード間の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行う。 劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄面とする。 ※難付着サイディングボード及び下地・旧塗膜の劣化が著しい場合には上塗りの前に「アレスダイナミックシーラーマイルド」等を塗装してください。				
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30

※シーリング材の上に塗装を行う場合は、下記の「施工上の注意事項/施工上の注意①」を参照ください。

■ 一般鉄部 (塗り替え)

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。 さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、清浄な面とする。 素地露出部は工程2の下塗りを用いて補修塗りを行う。				
下塗	ザウルスEXII 塗料用シンナー-A	0.13	4時間以上 7日以内	ローラー	0~10
		0.17		エアレス	5~15
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30

■ 亜鉛メッキ面

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	全面清掃、脱脂、目荒しを行い、清浄な面とする。白さびなどはワイヤーブラシ・サンドペーパーなどで除去する。				
下塗	スーパーザウルスII (ベース:硬化剤=9:1) 塗料用シンナー-A	0.14	4時間以上 7日以内	ローラー	0~10
		0.17		エアレス	0~10
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15
		0.14		エアレス	10~30

【弾性仕上げの場合】※「弾性硬化剤使用」

■ コンクリート・モルタル面

複層仕上げ

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)	
素地調整	新設	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。				
						クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処置を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。
下塗	エコカチオンシーラー	0.13	2時間以上 7日以内	ローラー	無希釈	
		0.17		エアレス		
中塗	ベース塗	アレスゴムタイルニューラフ 上水	0.6~1.3	2時間以上 7日以内	リジガン 4.5~6.5mmφ	3~10
上塗 (1回目)	セラムレタン (ベース:弾性硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15	
				0.14	エアレス	10~30
上塗 (2回目)	セラムレタン (ベース:弾性硬化剤=10:1) 塗料用シンナー-A	0.12	-	ハケ、ローラー	5~15	
		0.14		エアレス	10~30	

施工上の注意事項

- 塗料の混合比率
①セラムレタンは2液混合形の塗料です。
使用の際は、所定の混合比率を守って塗装してください。
②硬化剤は、必ず専用の硬化剤を使用してください。
③混合比率が異なったり、専用硬化剤以外のものを使用した場合、塗膜に粘着が残るなど塗膜性能に悪影響を及ぼすことがありますのでご注意ください。
④混合比率(重量比)ベース:硬化剤=10:1
- 汚れについて
①シーリング材、鉄サビに起因する汚れは、従来塗料と同レベルです。
②建物の構造上、本来の低汚染性能が発現しない場合もあります。雨掛りの少ない被塗面や汚れが大量に流れ落ちる被塗面では十分な汚れ防止効果が得られないこともありますのでご了承ください。
- 施工上の注意点
①素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科科学社製HI-500シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。
②本品はインシアン系硬化剤を使用していますので塗装環境、特に高湿度の環境下での塗装はなるべく避けるようにしてください。また、塗装時に塗料やスプレーミストが直接皮膚や粘膜に触れないように、またスプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
③希釈シンナーは必ず、塗料用シンナー-Aをご使用ください。その他のシンナーを使用した場合、チヂミや再溶解などが生じる場合があります。
④ハケ、ローラー、塗装機等の洗浄には、ラッカーシンナーをご使用ください。
⑤ベースと硬化剤を混合した塗料は、8時間以上(23℃)にご使用ください。調査後、長時間経過した塗料を使用した場合、塗膜性能が低下する場合があります。
⑥気温5℃以下、湿度85%以上の環境では塗装を避けてください。また、強風時や降雨、降雪、結露が

ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気、スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・ネリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
- 防火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

- 予測される場合も塗装を避けてください。
- 吸い込みが大きい下地や部分的に下地調整を行った場合には、アレスダイナミックシーラーマイルド及びエポキシシーラーをご使用ください。(VPシーラーは不適)
- ⑧塗膜調整品については、高温などの乾燥が早い環境下では艶ムラが生じることがあります。
- ⑨塗膜調整品仕上げの場合、塗装方法の変動、所要量のバラつき等により、艶ムラが生じる場合がありますので、ご注意ください。
- ⑩塗膜調整品の場合、はけ、ローラーでの塗装ではむらが出やすいため、スプレー塗装を推奨します。
- ⑪塗膜調整品の場合、吸い込み差によるむら軽減のため上塗りの1回目に「艶有り品」、2回目に「艶調整品」を推奨します。
- ⑫塗膜調整品の場合、素地の表面形状、素地の劣化度合、膜厚、乾燥条件などにより、実際の艶と異なって見える場合があります。事前の試し塗りを推奨します。
- ⑬1層目・2層目と異なる色を塗装する場合は、塗り重ねインターバルを1日以上空けてください。
- ⑭スチールドアなどで、ゴムパッキンと接触する部分は、粘着することがありますので、塗装は避けてください。
- ⑮シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンプライドタイプのシーリング材を用いることとし、「シープラ」または「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」をプライマーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- ⑯溶剤適性の無い旧塗膜は影る可能性があります。
- ⑰濃彩色仕上げの際、雑巾・ウエス等で強くこすると、色落ちや色変化が起こる場合があります。
- ⑱汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑲蓄熱されやすい素材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディングなど)等で、旧塗膜が弾性リジンや弾性スタック、複層弾性のアクリルトップ等の場合、環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が影る場合があります。これらの場合には既存塗膜を除去する等の入念な下地処理を行ってください。

- 目に入った場合: 直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合: 直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸い込んだ場合: 空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 吸入した場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取る。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 本品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工主様に対して安全十分に注意を払うよう指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接するなどのないよう指示してください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもありますのでご了承ください。

(21年12月31日PNA) カタログNo.243
頒布価格 1,000円(税込)